
27. <水球陣>東日本リーグ順位決定リーグ第2戦

H27.3.15 対プロミネンス @慶應日吉プール

東大	1 3 0 1	計5
プロミネンス	2 2 0 0	計4

得点者：浪間(1)、池亀(1)、石田(2)、山田(1)

東日本リーグ最終戦。今大会で勝ち星のない東大は是が非でも勝ちたい一戦である。残念ながらこの大会で勝利してもA2リーグ残留とはならないが、今まで勝ったことのない相手だけにモチベーションは十分だ。相手は社会人であるため、これまでスイムを積み重ねてきた自分たちを信じて泳ぎ続ければ、必ずや勝機は見えるであろう。

第1ピリオド

プロミネンスがセンターボールをとり、試合が始まる。序盤は両チームとも得点できない。相手の攻撃を疋田の好セーブなどで防ぎ、浪間中心で攻撃するも、敵フローターバックやキーパーの上手さに、なかなかシュートまでつながらない。開始2分、梶原から浪間へのパスインがカットされ、カウンターを食らう。池亀が必死にディフェンスするも、相手の寝返りながらのシュートがゴール左隅に決まり、先制点を奪われる。さらに続けざまに右サイドから鋭いミドルシュートを決められ、突き放される。とにかく1点がほしい東大は、浪間にボールを集め攻撃するが、得点に結びつかない。しかし、相手の攻撃をしのぎチャンスを待っていたところに、切り返しで石田が退水を誘発。慎重に攻めたい東大はタイムアウトを取りしっかりとセットを組む。そしてパスを回して相手の守備を崩そうかというその時、池亀が不意をつくシュートを決め、反撃の狼煙をあげる。勢いに乗りたい東大だったが、追加点はあげられない。しかし、相手の決定的なシュートを疋田が止め、突き放されることはなく、1点を追う形で第一ピリオドを終える。

第2ピリオド

第一ピリオドは相手のペースに合わせていた東大だったが、このピリオドでは自分たちの泳ぎを見せ始める。最初のプロミネンスの攻撃を防ぐと、右奥まで泳ぎこんだ谷口からのセンタリングを浪間がハンツで決め、同点に追いつく。その後両チーム得点できない時間が続くが、優勢なのは東大だ。徐々に疲れを見せ始め、攻撃に人数を割けなくなったプ

ロミネンスに対し、スイムを続けてきた東大はミーティング通り全員で守るため守備が厚い。相手フローターへのパスのカットからのカウンターで抜け出していた石田にボールが渡り、石田がこれをしっかりと決めついに勝ち越す。連続得点で勢いに乗る東大は、退水でまたもや石田がシュートを決め、差を広げる。ここからさらに突き放したい東大であったが、敵フローターにペナルティを誘発され、失点のピンチに。これは運よくツーモーションで難を逃れるも、退水とカウンターで2失点し、同点に追いつかれる。勝負は後半戦に持ち越された。

第3ピリオド

開始直後の浪間のシュートは、飛び出したキーパーに弾かれ、惜しくもバーを叩く。相手の攻撃をしのいでカウンターを何本も出すが、相手が少人数で攻撃してくる分、守備の人数が多く、得点に結びつかない。一方で、東大も度重なるピンチを疋田のセーブによって防ぎ、ゴールを割らせない。ラスト3分を切ったところで池亀のボールカットからカウンターを出し、梶原からフリーの石田にパスが渡るも、石田のシュートはキーパーに止められる。膠着状態は最後まで続き、第3ピリオドではスコアが動かぬまま、同点で最終ピリオドを迎える。

第4ピリオド

膠着状態はなおも続く。狙いすました池亀のミドルシュートは、ゴール左隅にわずかに外れる。また、浪間の必死のフローティングシュートもバーに嫌われ、決まらない。敵フローターに決定的なシュートを何度も打たれるが、疋田がことごとくこれをシャットアウト。動きが止まりつつあるプロミネンスに対して、泳ぎ続ける東大はシュートの本数が増え、惜しいシーンも見られる。試合が動いたのはラスト2分を残したところだった。タイムアウトを取って勝負をかけてきたプロミネンスの攻撃を疋田のセーブによって防ぐと同時に、東大のカウンターが飛び出す。抜け出した山田が疋田のロングパスを受け取り、決死のシュートを放つ。これがサイドネットに突き刺さり、東大が再び勝ち越す。その後は相手の攻撃を落ち着いて防ぎ、5-4、1点差で東大が勝利した。

東日本リーグ最終戦を勝利で終えることができた。残念ながらA2リーグ残留とはならなかったが、これまで勝てなかった相手に勝つことができたのは、大きな進歩であろう。特に、最後まで泳ぎ続け、結果的に泳ぎ勝つことができたのは練習の成果である。しかし、カウンターを出すものの、一瞬のパスの遅れなどで決めきれない場面が多く、これらを決めていればもっと楽に勝てたかもしれない。インカレ出場にはこの課題をクリアしなければな

らないだろう。最後になりましたが、監督を務めてくださった下東さん、応援に駆け付けてくださった林裕三さん、吉田さん、青木さん、滝澤監督、有吉さん、只野さん、桐生さん、郁さん、本当にありがとうございました。

(文責 谷口 遼)
